

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立伊万里小学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>啓成中校区コミュニティスクールの活動（地域との連携活動）に取り組んでいることで、地域への貢献度の向上を目指している。</li> <li>不登校傾向（登校しぶりなど）児童や気になる児童については、全職員で共有し、校内における支援体制の強化を図っていくことを共通理解した。また、関係機関（SC、SSW、市福祉課等）との連携も今後も深めていく。</li> <li>保護者のアンケートの結果より、「子どもたちは、自分から進んであいさつをしているか」、「宿題に目を通しているか」等の回答率が低かったため、家庭での教育の役割等について育友会と連携しながら啓発していく。</li> <li>「働き方改革」について、教職員の中での意識を高めていけるように、具体策を講じ、よりよい職場づくりを目指す。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>『輝け！伊万里小』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりが伸びる学校</li> <li>○笑顔と活気にあふれる学校</li> </ul>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>—『きらきら伊万里っ子プロジェクト』の推進— &lt;7つの目標の具現化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○返事が響く</li> <li>○挨拶が響く</li> <li>○明るい声と歌声が響く</li> <li>○感謝の言葉があふれる</li> <li>○思いやりがあふれる</li> <li>○笑顔があふれる</li> <li>○活気にあふれる</li> </ul>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価				
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でのマイプランを共有するとともに、校内研修等での取組の促進を図る。	B	・各自が取り組んでいるが、日々の実践に追われ、共通理解というところまでには至っていない。 ・校内研究の授業実践の積み重ねにより、教師の指導力が向上している。	B	・授業実践、研究会等の取組により、共通理解度は深まったものの、実践意欲については、高まっていない面も見られた。	B	・日頃から子供たちが学びやすい環境づくりにご尽力いただいていることに感謝している。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○意欲的に取り組む児童の育成 ○「活用問題ができる力」が身につく授業の実践	○「学校は個に応じた指導をしている」と回答した保護者80%以上 ○12月の佐賀県小・中学校学習状況調査の「記述式」問題において、正答率50%以上	・児童の実態把握と個に応じた指導を充実させるための時間を設定する。 ・条件に沿って授業のまとめをしたり、作文をしたりする活動に各単元1回以上取り組ませる。(例:50字以内で、キーワードを使って、自分の考えを入れて等)	B	・いまりっこタイム等を利用して、やり直しや習熟の時間を確保できている。 ・1問10点の記述式評価問題を各期に2問取り組み、テストとして意識させることで、児童の意欲を高めている。 ・学習状況調査の問題(国算)を月に1問ずつ宿題プリントで出し、見慣れない出題形式の問題に解答する練習ができています。	B	・記述式の問題に取り組ませる機会を増やしたことで、児童の意欲やスキルが高まり、学習状況調査の結果では、5・6年生が県平均を上回ったが、4年生は、県平均を下回っていた。	B	・苦手だけど1問でも理解できたということが興味から意欲へと進んでいくのではない。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●「根っこの教育」の充実 ～「3つのあふれる」を中心に～	○「感謝の言葉や思いやりの言動が増えた」と回答した保護者80%以上 ○「市作成の『いのちの教育指導資料』と『伊万里っ子しぐさ』を積極的に活用している」として、肯定的な回答をした教師70%以上	・各学年の企画書の中に具体的方策を明記し実践していく。 ・市作成の「いのちの教育指導資料」と「伊万里っ子しぐさ」を年間指導計画に位置づけ活用を推進する。	B	・各学年でそれぞれの具体的方策をもち、実践している。 ・代表委員会で「明るいあいさつをしよう」という取り組みをしたことで、意識が高まった。 ・「いまりっこしぐさ」を積極的に活用している」では毎朝全校放送にて行動を啓発している。	B	・児童アンケートから「友達のいやがることを言わないようにしている」は約90%だった。 「進んで挨拶をしている」は約89%だった。 ・教師からは約66%が肯定的な回答であった。 ・「いのちの教育指導資料」「伊万里っ子しぐさ」の活用を引き続き呼びかけていきたい。	B	・心からありがたうやごめんないお親子でも言えているのかと思う、本音で話ができているだろうか。	・道徳教育推進教師 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができている」と肯定的に回答した教員80%以上	・いじめの対応についての研修を適宜行い、職員の意識を深めていく。	B	・いじめの未然防止のための「自問掃除」、「挨拶」、および全職員の細やかな声かけを行い、気づいたことを情報交換することができた。 ・教師の人権感覚を磨くための研修や、お互いを大切にする学級の風土づくりの研修などについて考えたい。	B	・教師の人権感覚を磨くための研修や、お互いを大切にする学級の風土づくりの研修などについて考えたい。	C	・どこまでその子の心に響くのか、入っていくのかということが難しい。	・人権・同和教育主任 ・生徒指導主任 ・各学年主任
	◎全校児童が、地域とつながる行事等へ参加し、郷土愛を育む教育活動	○「自分の住む町が好きである。」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・地域の教育資源や人材を活用した教育活動(体験活動)を実施したり、地域とつながるプロジェクトを実施したりする。	B	・「トントンを盛り上げよう」をテーマに全学年で取組を行った。3年ぶりということもあり、初めて取り組む職員もいたが、全学年前向きに取り組むことができた。「テカビカ運動」は、メディアによる放映もあり、周知することができた。	B	・「自分の住む町が好き。」「だいたい好き」と答えた児童が約92%であった。トントントン学習会を継続して行ってきて、児童も楽しみにしている。出番以外の児童も祭りへの参加の意欲が高まっている。今後も地域を知り誇りに思う児童を育てていきたい。	A	・地域のおじいちゃん、おばあちゃんのかかわりが大切だと思う。 ・コロナ対策についても行動制限が順次緩和されていくと思うので、地域とのつながりを深まるようになっていくことを願っている。	・教頭 ・各学年主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と肯定的に考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童95%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施し、適宜指導していく。 ・保健だよりを発行する。	B	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施し、97%の児童が「健康に食事は大切である」と肯定的に考えている。 ・「朝食を食べて登校する」児童が92%、「時々食べる」が4%。昨年度よりやや改善している。	B	・「健康に食事は大切である」答えている児童が98%。前回より若干の意識向上があった。 ・「朝食を摂らずに登校する」が9%で、うち毎朝欠食しているが3%。親が寝ていて自分で起きて登校している家庭もあり、改善は難しいと思える。 ・給食はほぼ残菜なく、完食することが多い。	B	・親が子供たちが食べるものは何でもいいと思っている家庭もある。調理実習を通して自分で作る経験をして学ぶことが大切だと思う。	・保健主事 ・学校栄養職員 ・食育推進担当者
	○「運動習慣の改善や定着化」	○外遊びをよびかけ、運動場で毎日遊ぶ児童70%以上	・昼休みの外遊びの励行や、職員自身も運動に親しむ意識を向上させるような取組を保健部が中心に行う。	B	・朝からたくさんの児童が外に出て、元気に体を動かしている。 ・持久走月間を長くしたことで、体力の向上や外に出て体を動かすきっかけを促すことができた。	C	・「昼休みなど、運動場で遊んでいる」と答えていた児童が66%だった。外に出て遊んでいる児童の固定化が進んでいる。計画的に体育行事を盛り込むことで、外に出て活動する意識を高めた。	B	・体を動かすということは大切で、心も前向きになると思います。	・体育主任(保健部)

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守	・定時退勤日を設定する。 ・部活動(コーラス部)の休養日を設定する。	B	・毎週金曜日を「定時退勤日」に設定し、職員室前面の黒板や入り口にカードを掲示し呼びかけを行い、意識する職員が増えた。しかし、まだ、時間外勤務が長くなる職員もおり、業務の効率化も含め指導を続けていきたい。 ・コーラス部は、毎週水・金・日と休養日を設け、徹底することができた。	B	・全職員の時間外勤務時間に対する意識が少しずつ変わってきて、退勤時刻が早くなってきた職員が増えてきた。ただ、定時退勤日の徹底がまだまだである。 ・業務の効率化について、意識を高めるようにさらに職員へ働きかけていきたい。 ・部活動(コーラス部)の休養日はきちんと設定した。	B	・先生方の業務はよく分かりませんが、大変だと思ひ、心配している。	・管理職
	○学校行事や業務内容等の改善	○「働き方改革ができています」について、肯定的な回答をした教員70%以上	・校内・校外行事の見直しや通知表(あゆみ)の作成について検討、改善していく。	B	・通知表(あゆみ)については、あゆみ作成ソフトの活用や、校内LANの中に各学年の資料を入れてお互い利用するようにしている。 ・あゆみ作成を前期と後期の2回にすることで、学期末の繁忙感が少しは軽減されている。 ・職員会議のペーパーレス化も定着してきて、効果を奏している。各部会の中で行事等の見直しも行われており、業務内容等の改善が図られてきている。	B	・学年団同士でこれまでに蓄積してきた資料のデータ等をお互いに、交換し合うことによって効率化が図れていると感じる。ICTを有効活用し、効率化を図りたい。今後更に業務内容を見直していきたい。また、タイムマネジメントの必要性等も問うていきたいと思う。 ・行事等については、昨年度までの反省をもとに検討し改善を図った。今後も職員の意見を取り入れながら、行事の内容等を精選していきたい。	B	・教職員に対して働き方改革が求められているため、メリハリのある対応をしてほしい。	・管理職 ・教務主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○「きらきら伊小っ子プロジェクト」の推進	○7つの具体的な目標の実践 ・返事が響く ・挨拶が響く ・明るい声と歌声が響く ・感謝の言葉があふれる ・思いやりがある ・笑顔があふれる ・活気にあふれる	○「返事や挨拶がきちんとできている」と回答した児童90%以上 ○『「ぼかぼか言葉」や「ありがとう」がよく言えるようになった」と回答した児童80%以上	・7つの目標について、校内やコミュニティセンター等に掲示する。 ・「ぼかぼか言葉運動」と「ありがとう運動」を展開する。	B	・7つの目標を全教室や校内の目につきやすいに掲示し、意識化を図った。全員が意識しながら取り組むことができていた。 ・児童の挨拶が声で元気になってきた。」という地域の方からの声を聞くようになってきた。 ・代表委員会により全校で取り組んだことで、「児童は、『ぼかぼか言葉』や『ありがとう』等、思いやりの言葉を使おうという意識が高まった。	B	・返事や挨拶が「できている」「大体できている」と答えた児童が約88%とR3と同じ割合になった。 ・「児童は、返事や挨拶がきちんとできている」と回答した教員は約72%となった。 ・「ぼかぼか言葉」や「ありがとう」が「よく言える」「大体よく言える」児童が約90%。	A	・「しましよう」と呼びかけるだけでなく、これが習慣として身に付いてほしい。社会に出て分かります。	・各学年主任 ・教頭
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性が向上した」と肯定的な回答をした教員70%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・ケース会議を開催したり、情報共有の機会を設定したりする。	B	・特別支援教育に関する研修を開き、発達障害への理解や通常学級における支援の方法について、理解を深めることができた。 ・ケース会議を4回実施し、その時だけでなく継続的な支援の在り方について考えることができた。	B	・気になる子研、ケース会議、巡回相談などを適宜することで、児童理解や具体的な支援方法を共通理解することができた。 ・「特別支援に関する専門性が向上した」と回答した教員が93%となった。	B	・特別支援教育について、学校の実情が大変気になっている。	・特別支援コーディネーター ・教育相談主任
○地域・保護者との連携	○家庭での役割や責任を明確にしてい ○コミュニティ・スクールの周知と連携活動の推進	○家庭での教育についてのアンケート(特に、朝食、家庭学習、あいさつ)の回答が、昨年度結果以上 ○コミュニティ・センター行事や地域行事への参加率が一昨年度以上	・家庭学習アンケートを実施し、実態を把握したり、「家庭学習のすすめ」を発行したりする。 ・コミュニティ・センター行事や地域行事への参加を促す。	B	・家庭学習アンケートを12月に実施し、現在分析中である。 ・コロナ禍の中、できる範囲での行事の参加を勧めている。制限がある中、学年行事等、実施できている。	B	・家庭学習アンケートを12月に実施し、現在分析中である。分析結果をもとに次年度の校内研につなげ、生かしていきたい。 ・コロナ禍の中、できる範囲での行事の参加を勧めている。少しずつではあるが、実施形態を工夫し活性化していきたい。	B	・忙しいを理由にせず、貴重な時間、機会を失わないようにしたい。今、何が大切なのかに気付くような活動を期待している。	・校内研(家庭学習部) ・育友会担当者

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の状況が続き、学校の様子を保護者や地域の方々に実際に見ていただく機会がなかなか持てない状況である。来年度は、コロナ禍状況次第ではあるが、自粛していた取り組みについて、業務改善の視点を持ちながら、地域と繋がる活動を活性化していく。</li> <li>・「健康体づくり」の「運動習慣の改善や定着化」の評価が低かった。外に出て遊んでいる児童の固定化が進んでいる。計画的に体育行事を盛り込むことで、外に出て活動する意識を高めていく。</li> <li>・「いじめの未然防止、早期発見、対応」については、今後も職員の意識をさらに高めていく。</li> <li>・啓成中学校区コミュニティ・スクールが始まって2年が経過した。今後、地域との連携を進め、深めるための手立てを考え、行っていきたい。</li> </ul>
----------------	---